

自己実現 2018

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

【第2回実力考査教科・科目別講評】

〈国語〉 平均点 61.9/200

現代文 40.1/100 評論 22.2/60 (37%) 小説 17.9/40 (44.8%)

古典 21.7/100 古文 13.4/60 (22.3%) 漢文 8.3/40 (20.8%)

初見の文章ばかりで構成された長文問題4題の実力問題であったので、前回までは範囲指定で出題していた漢字や古文単語の問題20点分で点数を膨らませていた者も、今回は難度が上がり点数があまり取れていない。特に古典分野では、まだまだ基本事項が定着していないために、内容読解が粗雑すぎて設問に応じた記述解答の要素を満たしておらず、得点は低かった。また、現代文分野に時間をかけ過ぎて古典分野を解く時間が足りなかったという者も多いようであるが、次回からは時間配分に失敗しないように気をつけること。

文法事項の徹底や語彙の強化など基本事項の早期定着化を図り、制限時間内での長文読解力を鍛えていくことが課題である。今回の実力考査の設問に対する着眼点や解答を記述する際の留意点などについて、別途配布した解説プリントの詳細を読み、今後の学習に活かしてほしい。

〈数学〉

前回の実力考査との比較

	文系		理系・総理	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
第1回実力考査	49.4点	23.4	80.8点	32.0
第2回実力考査	41.2点	26.0	58.2点	30.1

文系・理系ともに前回の実力考査より平均点が大幅にダウンしました。これは、課題部分を含まない完全な実力考査に移行したことも理由の1つであろうと考えられます。

文系においては、平均点の下落率が17%、標準偏差が2.6増加。全体の得点が下がり、さらに、ばらつきが増えている状態です。高得点の生徒がいることを考えると、個々の生徒の学力に差がついてきていると思われます。

理系・総理においては、平均点の下落率が28%、標準偏差は1.9減少。平均点が大幅に下がった結果、得点のばらつきが抑えられたという皮肉な結果が見受けられます。しかし、得点の下落率に比して標準偏差の減少が小幅な面を考えると、文系同様、学力差が広がっているとも考えられます。

次回の実力考査に向けて、今回できなかった問題の解き直しは当然として、自分の弱い分野(計算間違いも含めて)が分かりかけていると思いますから、そこを重点的に基本の確認に、取り組んでください。また、そろそろ、試験だからと緊張するだけでなく、問題文を冷静に読んで(外分を内分に読み違えるとか笑い話では済まされません)、問題の意図をくみ取ろうとすることを心掛けてみてください。

〈英語〉

今回は、全て実力考査の問題であった。前回までのテストで、既出問題であればある程度できた人も、新しい問題には全く歯が立たない、という人も多かったのではないかと。特に、

〈保護者の方々にも読んでいただきましょう〉 〈ご意見・ご質問をお寄せください〉
『自己実現2018』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校 HP でも閲覧できます。

「時間が足りなかった」という声が多かったようだ。むやみやたらに解き始めるのではなく、最初に時間配分をして解いていくことが必要である。例えば、長文各20分が3題、発音アクセント・文法問題が20分、英作文20分で計100分ということも考えられる。さらに、「単語が難しかった」という人は、圧倒的に単語の勉強不足である。長文の単語は、Data Baseに基づいて出しており、Data Baseに載っていないものは脚注をつけたり、簡単に言い換えたりと工夫している。単語が分からなくて長文が読めなかったと感じる人は、基礎的な単語からもう一度覚えなおそう。

長文に関しては、最初の問題は時間をかけたようで、正答率も高かったが、次第に息切れをしてきているのか、長い文章で時間がなくなったのか、正答率が落ちている。(第1問42.3%、第2問33.4%、第3問24.3%)

発音・アクセントはパターンを把握することが大切である。発音問題頻出単語などがあるので、単語の本や、GRAMMARMASTERなどで確認しておこう。

文法問題は、何度も解いていくことで、似たような問題に出くわす確率が高くなる。こちら「習うより慣れろ」で、根気強く練習する必要がある。Practice makes perfect.

また、英作文は正答率13.6%と極めて低い数字であった。難しい問題が多かったが、長文と同様に、単語自体で苦しんだ人が多かったようである。しかし、難しい単語を使う必要はなく、平易な表現で間違いのない文を書く、また、自然な英語を書くことが求められる。何も考えないで突然書き始めるのではなく、文の構造を決める(どの文型を使うか、主語・動詞を何にするか)ことから初めて文を組み立てていくと、比較的スムーズに解けるだろう。答案によっては、今まで授業などで習ったことを使って工夫して書いているものも見られた。継続的に取り組んでいこう。

全体的には31.5%の正答率であった。今後は平均点が4割程度になるように、夏休みにかけてしっかりと基礎的な分野を徹底して学習して欲しい。

学年全体(200点満点) 平均点 63.1点

No.1平均(100点満点) 33.2点 No.2平均(100点満点) 29.9点

普通科 平均点 61.0点

総合理学科 平均点 79.9点

No.1平均 32.2点

No.1平均 41.1点

No.2平均 30.5点

No.2平均 38.8点

<リスニング>

平均点 学年全体 37.7点 普通科 37.2点 総合理学科 41.5点

<リスニング+筆記>250点を200点満点に換算

平均点 学年全体 80.7点 普通科 78.6点 総合理学科 97.4点

<物理> 物理(理系・総理)

大問1は円錐振り子の問題である。おもりにはたらく力を適切に描いてほしい。大問2はP-Vグラフから情報を読み取る。「単原子分子」と書いていないので注意する。大問3は弦の振動の基本的な問題である。弦の固有振動について復習してほしい。大問4はスイッチの切り替えによってコンデンサーに蓄えられる電気量の変化を考える。大問2を除く各問の初めの問題((1)や(2))は確実に正答してほしい。30点未満の生徒は今一度各分野の基本事項の復習を徹底してほしい。力学を武器にできるかは勝負の分かれ目になります。

<保護者の方々にも読んでいただきましょう>

<ご意見・ご質問をお寄せください>

『自己実現2018』など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

物理基礎(総合物理)

授業では力学分野の復習と演習を終えた段階である。力学の問題は他に比べてややレベルの高い問題設定をした。各分野各問の正答率は表の通りである。力学は各問とも60%以上の正答率が欲しいところであった。波動分野、電気分野についてはまだ基礎の復習が追いついていないのであろう。国公立大学を最後まであきらめない態度での取り組みを期待したい。

物理基礎分野の正答率

力学						熱学			波動					電気		
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
91%	48	44	44	74	57	91	78	83	78	44	13	74	44	78	26	9

<化学> 化学(理系・総理)

今回の実力考査を終えて感じたことは、圧倒的な復習不足である。気体の分野の出題では、非常に基本的なボイル・シャルルや気体の状態方程式を用いるだけの部分で白紙にして考えることを放棄してしまっているものも多く見受けられた。また炭化水素の燃焼反応という非常に基本的な化学反応式で間違えるものも多かった。自分がこのレベルであるなら、赤本などの入試演習をせずにグローバルを見直すべきである。以下の2点を今後気を付けて取り組んでほしい。

- ・基本をバカにせず、徹底的に取り組むこと。
- ・問題文の長さや問題の難易度は一致しない。長文の問題で読むのをあきらめるようでは二次試験での高得点は望めない。長文の問題に対し逃げないように、最後までしっかり読むこと。

化学基礎(総合化学)

全体的な講評として、今年に入って授業で学習した範囲(物質の構成)についての基礎的な内容は定着してきたようだ。だが、各種計算問題、グラフ問題など、思考力・計算力を必要とする問題になるとまだまだ取っつききれないようだ。心当たりの分野については、ニューグローバルの「基礎チェック」～「基本問題」程度の問題にあたり、補ってほしい。その単元をやりきると、かなり違ってくるはずである。その後「チェック&演習」の予習を進めていくと、より効果的である。

<生物> 生物(理系・総理)

第1問 代表的な細胞小器官や単細胞生物は必ず名称も含めてかけるようにする。第2問 カルビンベンソン回路中の炭素数と分子数の変化を正確に理解してする。グラフから数値を読み取る問題も質問をしっかりと読む習慣をつける。第3問 DNAの合成方向とプライマーのはたらきをもう一度確認する。エラー発生時には、3'→5'エキソヌクレアーゼ活性によって1塩基が除去され、その後DNA合成が再開する。第4問 生殖細胞の形成と減数分裂についての正確な知識と理解しておく。問5以降の問題はたいてい簡単な問題であるのでしっかりと内容を把握してから問題を解くようにしてください

<世界史>

平均 42.7 点(マーク 33.1/70 記述 9.6/30) 最高点 : 93 点

今回の考査では、3年の1学期中間までと2年の学習範囲から二次試験を意識した論述問題4問とセンター試験を意識した正誤問題48問、一問一答式問題14問を出題した。3年に学習した範囲は比較的良好に取れているが、2年の既習範囲では基礎知識がまだ不足し、正誤を見分けられずにいる者が多かった。特に年代整序問題は7問中の6問で正答率が50%を切っていたので、教科書を精読して歴史の流れを理解して欲しい。夏休みに16世紀～20世紀の復習を行うので、基礎知識が不足しているというものは利用して流れを理解できるようにして欲しい。夏休みに2年生の既習範囲の復習を必ずしておいて下さい。

<日本史>

平均点 40.3 点。近現代史2題、古代史2題で出題。【1】近現代文化史。解答方法の面倒な問題であったであろうが、配点を考慮すればありうる方法。現に東京の私大ではままある方法。やや難しい出題とした。【2】受験生の不得手とする二文正誤。ちょっと難しい用語を入れると一気に得点率は下がった。教科書・図説などをどれほどまめに見ていくかが今後の鍵だろう。【3】ここも不得手な年代整序。得点率は低い。また、文中の空欄補充がほとんど壊滅に近かったのは情けない。「奴」が「如」に、「崇峻」が「宗」「俊」に、「筑紫」が「築紫」に、「玄昉」が「玄昉」「玄坊」に、「文室」が「文屋」に、といった漢字のミスが多い。また「郡」という余計なものを書くとか。センターだから関係ないではなく、自分の知識の不確かさを反省すべし。【4】近現代史。ここは点取り問題で易しい問題にした。この14点は確実に取っておきたいところ。

総体も終わり、部活を引退した人も多くなってきただろう。自分**が**すべきことは何なのか、試験の復習をしながら、考えなさい。「先生、何やったらいいんですか」という質問をする前に、自分**は**一体何ができていないのか、まず把握せよ。その把握ができれば、自ずと自分なりの答えが出てくるだろう。試行錯誤を繰り返しながら、自分**の**勉強スタイルを確立せよ。

[大学入試センター試験への準備について]

センター試験は、現役生は個人ではなく在籍高等学校経由で一括出願することになっています。出願方法や注意事項等の詳しい説明は、**9月4日の学年集会**で行う予定です。また、出願書類(センター試験では「**受験案内**」と呼んでいます。)は、最寄りの大学(神戸高校は神戸大学)より70回生全員分を取り寄せます。夏季休業中に申請や手続きが始まるものについて確認しておきます。

英語リスニング「イヤホン不適合措置申請」について

英語リスニングで使用するイヤホンが耳の形に合わず装着できないために、試験当日ヘッドホンの貸与を希望する場合は、「イヤホン不適合措置申請書」を下記の方法で入手し、**最寄りの大学入試センター試験参加大学の入試担当窓口**で確認の署名をしてもらった後、志願票の所定の欄に貼り付けて出願しなければなりません。イヤホンが自分の耳に合うかどうか不安を感じている人は、**進路指導部の先生**のところまで来てください。昨年の現物があります。

[申請書の入手方法]

- ①「大学入試センター」のホームページからダウンロードする。
- ② 進路指導室または学年(職員室)に取りに来る。